

令和2年8月24日（第2回訂正版）

東京都高等学校体育連盟
柔道専門部加盟高等学校長殿
柔道部責任教諭殿

東京都高等学校体育連盟柔道専門部
部長 小宮 徳 健
《公印略》

「2020 Tokyo Thanks Match」 兼 第70回東京都高等学校学年別大会

1. 期 日

令和2年10月3日（土）8:30～9:30受付・計量 10:00試合開始
男子団体試合・男子個人試合・女子個人試合

2. 会 場

東京武道館（足立区綾瀬3丁目20番）

3. 引率・監督

東京都高等学校体育連盟柔道専門部「大会実施規定 I. 大会について 3. 引率・監督」を参照すること。

4. 参加資格

東京都高等学校体育連盟柔道専門部「大会実施規定 I. 大会について 4. 参加資格」を参照すること。

5. 参加制限

- ① 男子団体試合〔2学年の部〕（点取り試合） **※今年度に限り、1学年の部を中止する**
 - ア オープン参加とする。
 - イ 前年度「1学年の部」の成績を考慮し、優勝校を第1シード、準優勝校を第2シード、第3位校（2校）を第3シードとする。
 - ウ チーム編成は、監督1名、選手5名の計6名とする。
 - エ オーダーの変更は毎回認められる。但し、2名でチームを編成する場合、前詰めとして大将を空位とすること。
 - オ 外国人留学生のチーム人員は1名以内とする。
- ② 男子団体試合〔3学年の部〕（点取り試合）
 - ア オープン参加とする。各校2チームまでの参加を認める。なお、2チーム参加の場合、Aチームをレギュラーチーム(実力上位)とすること。
 - イ チーム編成は、監督1名、選手3名の計4名とする。但し、個人戦に出場する選手はエントリーできない。エントリーした選手が大会当日受付までに欠場した場合、新たに選手を補充することを認める。新たに補充された選手は、その時点で個人戦の出場権を喪失する。
 - ウ エントリー時のオーダーは固定する。但し、2名でチームを編成する場合、前詰めとして大将を空位とすること。
 - エ 外国人留学生のチーム人員は1名以内とする。
- ③ 男子個人試合〔3学年の部〕
 - ア オープン参加とする。但し、団体戦にエントリーした選手は参加できない。
 - イ 体重区分は次の4階級とする。〔66kg・73kg・90kg・90kg超〕
 - ウ 出場は1階級に限る。
 - エ 外国人留学生の参加人数の制限は設けない。
- ④ 女子個人試合〔2・3学年の部〕 **※今年度に限り、1学年の部を中止する**
 - ア オープン参加とする。
 - イ 体重区分は次の3階級とする。〔52kg・63kg・63kg超〕
 - ウ 出場は1階級に限る。
 - エ 外国人留学生の参加人数の制限は設けない。

6. 競技規則

- ① 国際柔道連盟試合審判規定(2018-20)および東京都高等学校体育連盟柔道専門部申し合わせ事項による。
- ② 「優勢勝ち」の判定基準
個人試合・団体試合ともに「技あり」又は「僅差」以上とする。「僅差」とは、両者にスコアが無い、あるいはスコアが同等であるが、「指導2-0」の場合を指す。
ア 個人試合では、規定試合時間が終了した時点で、両者にスコアが無い場合、又はスコアが同等である場合、指導の差が1つ以下であれば、延長戦(ゴールデンスコア)によって勝敗を決する。延長戦において、両者に指導の差がつく宣告を行った時点で試合を終了し、指導の数が多い選手が敗者となる。すなわち、指導差1つで僅差となる。
イ 団体試合では、チームの内容が同等の場合は、代表選手を任意に選出して代表戦を行う。代表戦の判定基準は個人試合に準ずる。
- ③ 試合時間は、団体試合、個人試合とも3分間とし、決勝のみ4分間とする。ただし、延長戦(ゴールデンスコア)は、時間制限を設けない。

7. 競技方法

詳細については、東京都高等学校体育連盟柔道専門部「大会実施規定」を参照すること。

8. 大会参加費

男子団体試合	: 1 チーム	10,000円
男子個人試合	: 1 名	1,500円
女子個人試合	: 1 名	1,500円

大会申込用紙に必要な事項を記入の上、学校長・責任教諭の出場承認印を押して、大会参加費とともに各支部指定日時の代表者会議時に提出のこと。

9. 表彰

- ① 団体試合(男子)
ア 上位8チームに表彰状を、また上位4チームには楯を授与する。
イ 優勝チームに優勝杯を贈る。
ウ 3学年の部の優勝校には文部科学大臣特別賞、同じく準優勝校にはスポーツ庁長官特別賞を授与する。
- ② 個人試合(男子・女子)
ア 上位8選手に表彰状を、また上位4選手にはメダルを授与する。
イ 但し、参加人数によって変更することもある。
ウ 3学年の部の各階級優勝選手には文部科学大臣特別賞、同じく準優勝選手にはスポーツ庁長官特別賞を授与する。
- ③ 前年度団体試合優勝チーム(男子各学年)にレプリカを授与する。

10. その他

今年度に限り、支部予選会は実施しない。都大会組合せ会議は9月28日(月)に講道館第1会議室にて行う。

東京都高等学校体育連盟柔道専門部
「2020 Tokyo Thanks Match 兼 第70回東京都高等学校学年別柔道大会」
【新型コロナウイルス感染症拡大防止ガイドライン】

令和2年9月1日
東京都高等学校体育連盟柔道専門部

1. 主催者の責務

主催者は大会開催にあたり、感染拡大防止対策と万一感染者が発生した場合のクラスター発生予防に努める。感染対策遵守事項や感染者が発生した場合の対応、事後処置などを参加者全員(選手、顧問、監督、役員、審判員)に周知徹底させる。

2. 大会中止について

新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては、大会を中止する。大会が実施できない場合、この大会を延期することはしない。

3. 会場への入場を認める者

- ①柔道専門部・審判員などの役員及び補助員、当該競技参加校の部顧問(外部指導者含む)、選手を含む部員、引率者(保護者を除く)など。
- ②柔道専門部から入場を許可された者。(報道関係者など)
※感染症対策の観点から、参加校の一般教職員、一般生徒、一般観客、保護者については基本的に会場への入場を認めない。
- ③密を避けるため、会場内への保護者等の入場を不可とし、無観客で実施する。

4. 会場入場の条件(3.に該当する者であっても、以下の条件を満たしていなければならない)

- ①大会参加に当たっては、下記書類を提出していること。
 - ・保護者同意書(様式1) → 参加者所属学校長へ
 - ・体調チェックシート(様式2) → 競技専門部へ
- ②体調チェックシートのいずれかの項目に✓記入がされていない場合。

5. 大会開催時の感染防止対策について

【主催者、大会運営者】

- ①大会実施中には適宜会場全体の消毒を行う。参加者に対しても 適宜手指消毒、手洗いを促し、実施させる。
- ②感染防止のため主催者が実施すべき事項や参加者が遵守すべき事項をあらかじめ整理し、チェックリスト化したものを適切な場所(大会の受付場所等)に掲示する。
- ③万が一感染が発生した場合に備え、個人情報取り扱いに十分注意しながら、大会当日の全参加者を把握するとともに記録し、保存期間(一ヶ月以上)を定めて保存しておく。
- ④他の参加者や役員等との距離(できるだけ2m以上)を確保する。
- ⑤大会は無観客で開催し、当日の入場に制限があることを保護者等に周知・徹底する。
- ⑥各事項が遵守徹底されているか会場内を定期的に巡回・確認する。
- ⑦個人戦計量時においても、選手同士の間隔をあけさせること。
- ⑧団体試合、個人試合ともに試合場への入場者数を制限する。試合場、待機場所の状況を常に把握して、密を避けるよう徹底する。
- ⑨入場前についても間隔をあけて整列し、密にならないように担当者を配置する。
- ⑩選手の動線は東京武道館の指示に従い、入口や出口には担当者を配置する。

【参加校、参加選手】

- ①大会に参加する全ての者はマスクを着用する。(参加選手の試合中、ウォーミングアップ中を除く)
- ②マスクは参加者が持参し、使用後は全てのゴミとともにビニール袋に入れて持ち帰る。
- ③大会中においてはこまめな手洗い、アルコール等による手指消毒や使用用具の消毒を実施すること。
- ④監督、待機選手はマスクを着用し、声を出しての指示や応援等をしない。

- ⑤ 競技前後のミーティング等においても、三つの密を避ける。
- ⑥ 参加者が大会終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに報告する。
- ⑦ 会場への移動等は参加校が責任をもって集団感染のリスク(3密の条件)を避ける。
- ⑧ 試合時に着用するTシャツ、柔道衣等は清潔に洗われていること。
- ⑨ マイタオル・マイボトルを持参し、共用はしない。
- ⑩ 帰宅後の衛生的推奨について
 - (ア) シャワーを浴びる。
 - (イ) ジャージ、柔道衣を洗う
 - (ウ) 履物を消毒する
 - (エ) バッグを消毒する
 - (オ) 水筒を洗う
 - (カ) 衛生用品を補充する(消毒ジェル/液、ティッシュ、マスク)

6. 大会運営(競技含)上の留意点

- ① 会場出入り口や受付場所等にアルコール等の手指消毒剤を用意する。
- ② 受付時の会話は最小限とし、必ずマスクを着用する。
- ③ 手洗い場には石鹸を用意する。(泡タイプ、ポンプ型)また、「手洗いは30秒以上」等の掲示をする。トイレ内の複数の参加者が触れると考えられる場所については、こまめに消毒する。
- ④ 男子の更衣は、観客席、また第一武道場を利用する。女子は更衣室を利用するが、時間差をつけ、密になることを避ける。併せて、換気扇を常に回す、換気用の小窓をあける等、換気に配慮する。
- ⑤ 飲食について
 - ア 飲食物を手にする前に、手洗い、手指消毒を行うよう声を掛ける。
 - イ 役員・選手とも、飲食場所は広さにはゆとりを持たせ、他の者と密になることを避ける。
 - ウ 大会中の飲食は必要最低限にとどめ、指定場所以外で行わず、周囲の人となるべく距離を取って対面を避け、会話は控えめにする。
 - エ 選手の飲食は、参加校の責任において飲食させるとともに、ゴミはすべて持ち帰らせる。
- ⑥ 会場について
 - ア 換気の悪い密閉空間とならないよう、十分な換気を行う。
 - イ 換気設備を適切に運転する。
 - ウ 定期的に窓を開け外気を取り入れる等の換気を行う。
- ⑦ 大会終了後、選手は着替えの前に足を畳の外に向けたまま畳に座り、消毒液を足に、次に手に塗布する。
- ⑧ 生徒の補助役員については、生徒本人、保護者の同意書を得るとともに、所属校の校長から承諾を得る。

7. 参加者の中に感染が判明した場合の対応

- ① 大会前
 - ア 感染者、濃厚接触者と特定され、大会当日に登校を許可されていない者の参加は認めない
 - イ 団体競技においては、参加申込後の選手変更を認める
 - ウ 個人競技においては、欠場とする
- ② 大会期間中
 - ア 参加者は、必ず当日の朝、自宅で検温を行い、平熱であることを確認し会場に入る
 - イ 特に生徒については、引率責任者が責任をもって体調を確認する
 - ウ 大会中に発熱等の症状を訴える者を確認した場合は、保護者に連絡し帰宅させる
- ③ 大会後
 - ア 感染者の所属する学校や行政機関の指示に従う
 - イ 当該校顧問は速やかに主催者(専門部)に報告する
 - ウ 当該の専門部は、感染者が参加した大会当日に会場内にいたすべての学校と役員等に連絡する
 - エ 危機管理マニュアルに従って速やかに事故報告書を作成し、高体連事務局に報告する